

幹部職員を前に就任あいさつ

関文科相「多様性こそ強み、教育通じて社会に広げる」

第2次高市改造内閣が9月17日に発足し、文部科学大臣に関芳弘衆院議員が就任した。

関大臣は18日に初登庁。松本洋平前大臣との事務引継ぎを行った後、幹部職員を前に就任のあいさつを行った。関大臣は、AIをはじめとする技術革新が急速に進んでいると指摘した上で、「これまでにない産業革命が起こっている時代の中で、一人ひとりの個性や多様性を大事にしたい。その多様性こそが人間や社会の強みとなる。そうした価値を、教育を通じて子どもたちだけでなく、社会全体に広げていくことも我々の大切な仕事。ぜひ皆さんのお力もお借りしながら、この新しい時代に私たちがやるべきことをしっかりと見据えて進めてまいりましょう」と述べた。

なお、政府は18日の閣議で副大臣と政務官を決定。文部科学副大臣に中田宏衆院議員と青山周平衆院議員、文部科学大臣政務官に美延映夫衆院議員と山本大地衆院議員が就任した。9月24日に新旧副大臣引継式と新旧大臣政務官引継式が行われ、新体制での文部科学行政がスタートした。

新旧大臣のあいさつ概要は次のとおり。

関大臣の就任あいさつ

「この度、文部科学大臣に就任いたしました関芳弘でございます。本当にこの分野は多くの素人でございます。皆さまが頼りの中、今朝も初めて登庁させていただきまして、皆さま方から拍手で迎えていただきました。人生で初めてあんなにたくさんの人から拍手をもらえ(笑)、本当に感激した次第でございます。



「上着もネクタイもせずつに大臣室に来てくださいます。スリッパで来てくても結構。(AIではなく)独自の考え方で、意見を言うてください」と話す関大臣

います。これからどうぞよろしくお願いいたします。

私はいつも、どこで喋るのも非常に短くて、『もっと喋ってください』と怒られているのですが、今日は手短にお話したいと思っています。私がいま一番、この日本社会において、あるいは世界において、人間の危機が来ているのではないかと思うのが、AIです。

非常に便利であり、AIを使うと生活も仕事も効率的にできますが、本当にものごとを考えなくなってきた感じがします。その傾向はますます強くなっている感じがします。

私もAIを使ったりしますが、オープンAIにあることを尋ねてみたら、ある答えが出てきました。その答えを受けて、今度はアンソロピックに『オープンAIがこう答えているけど、あなたはどうか答えますか?』と聞いて、今度はジェミニに『2つの回答がこうだったけど、ジェミニはどうか答えますか?』というような使い方をしているのですが、それからAIの回答を見てみると、コンピュータにはやはり限界もあるのかなということを感じます。

先般、ある電機メーカーの社長とお話をする機会がありました。その会社の入社式で、新入社員5名に挨拶をしてもらう機会を設けたそうです。すると、5名のうち、初めから3人目まで全く同じ挨拶をしたらしいのです(笑)。生成AIにどんな挨拶をすればいいのか聞いたのでしよう。最後の二人は、少し的外れではあったものの、その年齢に見合った自身の考え方を話されたそうです。

これを受けて、社長さんは『我々は生成AIを使って、社会に広めていくことを仕事としていいるから、生成AIを広げていかなければならない。ただ、入社してこれた皆さん方がそれぞれ感じることもあるはずだ』という趣旨の話をされました。面白い入社式をするなあと感心した次第ですが、今後ますます生成AIが使われていくと思います。

この話の中に、我々、文部科学省が子どもたちの教育、また社会人の教育までも今後行っていくという中で、大事なことが含まれていると思います。一人ひとりの個性や多様性。これらを大事にする教育、社会をつくっていく、その多様性こそが人間の、そして社会の強みなのだということ。教育を通じて、子どもたちや社会全体に広げていくのが我々の仕事だと思います。

今までにないような産業革命が起こっているこの時代の中において、我々がやるべきことをしっかりと見据えて、皆さんと一緒に頑張って進めてまいりたいと思います」